狂犬病ワクチンの説明書
商品名：Verorab

■狂犬病について

日本では1957年以降、国内感染はありません。2006年にフィリピンで犬に噛まれ、帰国後に発症した2例が報告されています。発熱、咬傷部位の痛みや痒み、続いて幻覚、精神錯乱が出現します。呼吸障害によりほぼ100%死亡します。世界的には狂犬病根絶国は珍しく毎年7万人が感染しています。潜伏期間は1ヶ月～数年です。

■感染経路

・感染動物に噛まれたり、掻かれたりすることで感染します。
・保菌動物はイヌ、ネコ、リス、コウモリなどのほ乳類です。

■流行地域

・日本、英国、オーストラリア、ニュージーランド、ノルウェー、スウェーデン、一部の島国を除いて全世界で発生しています。

■診断と治療

・動物咬傷歴から疑い、唾液や脳脊髄液からウイルスの遺伝子検出で診断します。
・発症すれば有効な治療法はなく、ほぼ100%死亡します。

■予防方法

・動物への安易な接触を避ける。
・動物に噛まれたらすぐに患部を洗い、ワクチン接種を開始する。
・噛まれる前にワクチンを接種する。

■ワクチン接種対象者

厚生労働省や米国疾病対策予防センターが接種を推奨する国や地域に赴く方。

■ワクチンについて

・国内承認ワクチン「ラビピュール筋注用」と輸入国内未承認ワクチン「Verorab」を取り扱っています。
・「Verorab」は、希望者、曝露前接種が2回目までの渡航者、鶏卵アレルギーがある人が主な対象者です。
・渡航前に暴露前（噛まれる前）ワクチンを原則3回接種します。
・暴露後はワクチンを接種していれば2回の追加接種、接種がなければ4回（又は5回）接種です。

	Verorab（輸入ワクチン）
【製造会社】	Sanofi Pasteur
【適応年齢】	6ヶ月以上。
【接種回数】	暴露前は原則3回。暴露後は2回。
【ｽｹｼﾞｭｰﾙ】	初回と1週間後と（3週間後or）4週間後。暴露後は当日と3日後。
【接種方法】	筋肉注射。
【持続期間】	3年間。

■副反応

注射部位の違和感、発赤、疼痛を生じることがあります。まれに発熱、頭痛、倦怠感、筋肉痛を認めます。ごくまれにアナフィラキシーショックを起こします。

■諸注意

過去に同ワクチンにアレルギーを起こされた方、発熱している方は接種できません。
妊娠・授乳中の方には推奨しません。

■健康被害が生じた場合

輸入ワクチンでは輸入代行業者による副作用救済制度を利用できます。
ワクチン接種後に発生した副反応などの症状には適宜対応します。

海外で動物に噛まれた場合の対応方法

暴露の分類

カテゴリー 1

動物に触れる。餌をやる。傷のない皮膚をなめられる。
＞＞暴露ではない。ワクチンは不要。

カテゴリー 2

動物による出血を伴わないひっかき傷。
＞＞軽度の暴露。ただちにワクチン接種。

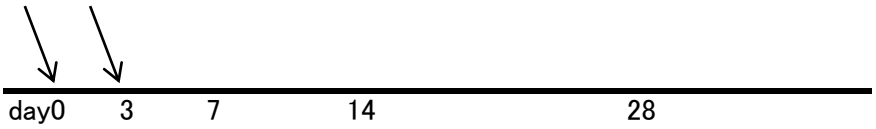
カテゴリー 3

皮膚を貫通する咬み傷やひっかき傷。
傷のある皮膚や粘膜面（口や舌）を舐められる。
＞＞重度の暴露。ただちにワクチン接種と免疫グロブリン投与。

ワクチン追加接種スケジュール

＜事前にワクチンを接種している場合＞

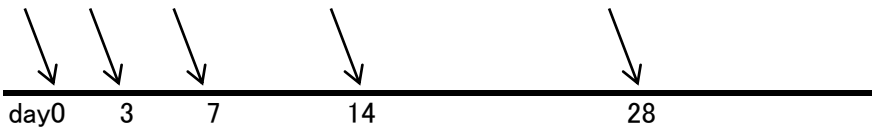
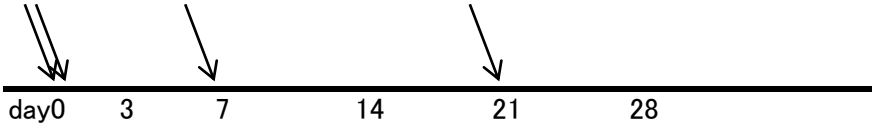
噛まれた日(day0)と3日後にワクチンを追加接種します。
ただし、免疫グロブリンは不要です。



＜ワクチンを接種していない場合＞

噛まれた日(day0)の他に以下の日程でワクチンを追加接種します。
カテゴリー3なら速やかに免疫グロブリンも打つ必要があります。

＜Essen法＞



＜Zagreb法＞